

酷暑の夏は ネギの病害防除が大切です



夏の暑さはネギにとって大敵です。高温期はストレスによりさまざまな病害が発生します。高温期、特に要注意の土壤病害は以下の3つです。



萎凋病

多発時期：6～9月
発病適温；25～28℃ やや乾燥条件で多い傾向。
症状：外葉が黄化、奇形になり生育不良となる。盤茎や根が褐変し腐敗する。
対策：①連作を避ける ②土壤消毒を行う ③定植前に苗の浸漬処理などを行う。**萎凋病から白絹病、軟腐病へと進行しやすいため、発病圃場では、同時防除を行います。**

白絹病

多発時期 6月下旬～8月
発病適温 28℃以上の高温、多湿条件で多発
症状：外葉が黄化し、垂れ下がる。盤茎や根が腐敗する。根部や地際部に白い菌糸が広がり、軟白部に褐色のゴマ粒状の菌核ができる。
対策：①殺菌剤の散布後に土寄せを行う ②排水をよくする ③水田との輪作体系をとる。
6月下旬ごろから適温になるため、早めの防除を行います。豪雨の前後に液剤で株元にしっかり散布すると効果的です。



軟腐病

多発時期 7～9月
発病適温 30℃以上の高温、多湿条件で多発
症状：外葉が黄化し、葉身から水浸状に腐敗。葉は暗緑色の病斑を生じる。軟白部は軟化腐敗し、強烈な異臭を放つ。
対策：①殺菌剤の散布後に土寄せを行う ②排水をよくする ③水田との輪作体系をとる
水につかると被害が多く、排水対策を徹底する。薬剤の予防散布が効果的です。



上記病害を防ぐには、株元の薬剤予防散布が効果的です。

- ・特に大切な時期は、6～9月上旬の株元および根の管理です。晴天時は夕方から作業を行うと効果的です。
- ・病害が発生する前に行うのが理想的です。発生してしまった場合は、汚染株を圃場外へ出した後に散布しましょう。
- ・殺菌剤の株元散布前に殺虫粒剤を事前に施すと、殺虫効果も期待できます。



今年の酷暑下では、今の病害対策が大変重要です。これにより秋冬ネギの収量が大きく変わってきます。速やかな対策を講じ、安心して収穫期を迎えましょう♪